

議事要旨(4) 金融商品専門委員会における検討状況について③ (IASB 公開草案：減損)

冒頭、加藤副委員長(専門委員長)より、IASB 公開草案「償却原価及び減損」に対するコメント案について、①前回審議事項(「測定区分」)の修文内容と、②今回のディスカッション・ポイントである「表示及び開示」と「実務上の簡便法」を中心に審議するとの説明があった。引き続き神谷専門研究員より、説明資料〔審議事項(4)〕に沿って、コメント案が説明された。委員からの主な発言及び事務局からの説明は以下のようなものであった。

- ・ あるオブザーバーから、前回審議事項(「測定区分」)の修文に関し、①13項の「公開草案の提案は公正価値測定に類似する測定属性を設けることにつながる」は言い過ぎである、②公正価値は「市場の割引率」、「市場全体のクレジット」、「個社のクレジット」の3要素で決まるが、IASBの提案モデルはこのうち前2者は固定し、3番目の「個社のクレジット」の変化だけを見ていこうというものであって、公正価値法とは異なる、③10項でIASBのスタッフの言葉として引用されている「見積もりキャッシュフローの現在価値」が正しい表現であるとの意見があった。これに対し、事務局から、提案されている手法は、「貸出金のように基本的に満期近くまで保有するものについて、予想キャッシュフローを每期見直すことを求める」という点で、公正価値法に類似すると表現しているが、指摘の点を踏まえ、その点を明確化するとの説明があった。
- ・ 同オブザーバーから、今回のディスカッション・ポイントである「表示及び開示」に関し、①ロストライアングルとストレステストについて否定的な内容となっているが、アナリスト業界は両者の開示を熱望しているので、一方的に否定するのではなく、せめて両論併記にして欲しい、②12頁で、ロストライアングルを否定する理由として、「各発生年度に紐つけて比較を提供する意味が乏しい」、「予想損失モデルは各時点の経済状況等を反映するため、単純な年度ごとの比較はかえって誤解を招く」とあるが、全く逆である。アナリストは「経営者が貸出実行時点でどの様な予想を持っていたか」、「結果としてその予想は当たっていたか」に関心がある。否定する理由として挙げられている内容は、まさに、アナリストがロストライアングルを熱望する理由である。③ストレステストについては寧ろ強制して欲しいと考えているくらいである、との意見があった。これに対して、事務局から、①ロストライアングルについては、30項で「財務諸表利用者の中には、見積もりの状況と直接減額による実際の情報を比較することで困難な見積もりの精度に関する情報が提供される」として、賛成する者もある」と記載して、指摘の内容は既に取り込んでいること、②ストレステストについても、財務諸表利用者の意見を入れて、両論併記とすることを検討するとの説明があった。
- ・ 事務局から、IASB提案では社内でのリスク管理目的で作成している企業だけストレステスト情報を開示することになっているが、このような「作成しているところだけ行う開示」を財務諸表利用者はどのように考えるかと、同オブザーバーに対して質問があった。同オブザーバーは、①金融機関でも大手のところはストレステストを実施しているが、中小は実施していない、実施できないというのが実態であろう、②このように格差があるなかで、全てにストレステストの実施・開示を強制させるのは無理、③現段階では、実

財務会計基準機構のWebサイトに掲載した情報は、著作権法及び国際著作権条約をはじめ、その他の無体財産権に関する法律並びに条約によって保護されています。許可なく複製・転載等を行うことはこれらの法律により禁じられています。

施しているところだけ開示するというのは止むをえない、④時間がたてばその手法がベストプラクティスとなって、やがては中小の金融機関でも実施できることになる。そうならば全てに強制すればよい、との説明があった。

- ある委員から、①ロストライアングルは作成に時間がかかるし、情報として有用かどうか疑問、②ストレステストは財務諸表の開示に相応しいのか疑問、ディスクロージャー資料など非財務情報で対応することでよい との意見があった。これに対しオブザーバーから ①近年、IASB は期待値のような統計学に立脚した開示を求めてきており、②その為には、前提条件を開示していくことが重要となっている、③ストレステストも同様で、各社がテストの前提条件を開示することが重要である との説明があった。また、ある委員からは リスク管理体制の説明や定量的分析の開示など、経営者が実際に行っていることを、経営者の目線で開示することが重要であるとの説明があった。
- 最後に、ある委員から、「測定区分」に関して、現行コメント案は色々な見解を併記しているが、最終的にどうするのかと質問があった。これに対し、加藤副委員長から、①現在は、「IASB 提案を受け入れるとすると、どういう問題点があるか」という観点から、様々な角度から分析を行い、問題点の洗い出しを行っている段階である。②前回、今回と皆さんから貴重な意見を頂き、問題点も絞られてきた ③また一昨日、FASB の公開草案も出たのでそれらも合わせて、今後、意見の絞り込みを行っていききたいとの説明があった。

以 上